

令和5年度

広野小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学んだことの定着率を高め、それらを活用できるようにするための  
授業づくりに取り組むとともに、家庭学習や読書の習慣を育てる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 大和 利弥	教頭 海老名 三智子
木村 祥子		教務主任 寺奥 久滋	
椎野 由美子		研修主任 木村 祥子	
		養護教諭 井内 菜津美	

校長

大和 利弥

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、授業研究会等を踏まえ、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字を正しく読むことや、基本的な四則計算や数量・図形についての基本事項は身につけてきている。 ●言葉の意味理解や既習内容が正しく使えていない場面があり、計算間違いがあるなどにも、課題が見られる。	・漢字を正確に書き、計算を確実に解き(学期末の漢字テスト・計算テストで80点以上)、自ら見直そうとする。 ・分からない言葉を自発的に調べたり、学習した内容を活用して学校生活や新たな学習に取り組んだりする。	・ミニテスト等を実施して児童一人一人の理解状況を確認しながら学習指導に取り組む。 ・日記、作文指導やノート指導を行うとともに、日々の授業での振り返りや、既習事項を比べたり関連付けたりする活動を授業に取り入れ、知識・技能の定着を図る。 ・読書の時間を確保する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ボイストレーニングや音読学習を毎日行い、はっきりした発音で読んだり、授業や集会等で自分の考えを伝えたりすることができるようになってきた。 ●文章や資料を読み取る力に課題がある。また、図や資料、複数の文章を読み取り、それをもとに考え判断する力が弱い。 ●自分の考えやその理由を、分かりやすく整理して伝えたり、説明したりする力に課題がある。また、友達の意見を聞いて自分の考えに生かすことが十分ではない。	・文章や資料を自らの力で読み取り、それをもとに自分の考えを深めたり、判断したりしようとする。 ・調べた事実や分かったことに自分の考えを付け加えて文章を書き、進んでみんなに伝えようとする。 ・ノートに自分の考えや授業後の振り返りを書くことができ、進んで伝えることができるようにする。	・絵や図、言い換え等を使って表現する活動を積極的に取り入れ、文章の要点やキーワードをつかめるようにする。 ・学習過程で児童の思考を見取り、話合いに生かしたり、ノート指導を行ったりする。 ・話合い活動の工夫(ICT機器やホワイトボードの活用等)を取り入れ、自分の考えを伝えたり、理由を説明したりする場を多く設定する。 ・ボイストレーニングの継続と内容の工夫、を継続して行う。 ・体験学習や交流学習を積極的に行い、人とのつながりを深め、積極的に考えたり自主的に行動したりすることができるようにする。 ・今後も縦割り班での活動を続け、活動後に振り返りや反省の場を設けることで、一人一人が表現できる場を増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題や作業に一生懸命取り組むことができ、宿題も忘れずできている。 ○読書の記録や読書賞などの取り組みにより、多くの児童が読書を楽しむことができている。 ●学童で宿題に取り組む習慣ができている反面、家庭で自主的に学習に取り組む習慣が十分とは言えない。	・意欲的に授業に臨み、進んで自分の考えを発言する。 ・学年に応じた家庭学習(家庭・学童)の時間を確保し、行おうとする。 ・学年に応じた本を選び、1週間に60分以上の読書活動を行おうとする。	・学習課題の提示と振り返りを毎時間行い、児童が見通しをもち、主体的に課題解決できるような授業展開を心がける。 ・課題のチェックや「学習の手引き」の活用により、家庭学習の重要性和学習時間の確保について、児童や保護者に働きかける。 ・「生活リズムチェック」や宿題、声かけにより、1日10分以上の読書および週末の家庭での読書を推進する。			

# 令和5年度 学力向上ロードマップ

